



地域がキャンパス 地域のキャンパス

沖縄大学は「知」と「人」の交流拠点となります

具体的な将来像

沖縄大学は創立60周年に際し、2028年までの長期ビジョン“OKIDAI VISION 2028”を掲げます。10年後の将来像として、沖縄大学憲章「地域共創・未来共創の大学へ」を具体化した3つのありたい姿と新たな共創に挑戦する4つの姿の実現に向かって歩んでいきます。

1

沖縄大学という場

～地球市民・地域市民の共育の拠点～

- ◆ 年齢・性・出身・職業・障がい・国籍・信条を超えた多様な人々が行き交う地域のホットスポット

2

沖縄大学の教育・研究

～地球環境・地域環境に貢献する教育・研究～

- ◆ 持続的発展を目指し、自治体・経済界・地域社会と連携しながら、地球と地域の重要課題に果敢に挑戦する教育・研究

3

沖縄大学の学生像

～共創力を育む大学教育への変革～

- ◆ 大学と地域を行き来し、対話・共創・実践の中から地域の未来を語るフィールドワーカー

4

沖縄大学の新たな 共創への挑戦

- ◆ 小さな大学の機動性を活かし、時代と地域の要請にスピード感を持って応える大学

- ◆ 同窓会・後援会と大学が一体となり、地域の中核人材を輩出し続ける大学

- ◆ 学生が誇り高く躍動し、地域が共鳴して新たなステージを創り出す大学

- ◆ 教職員が互いを尊重し、一丸となって力を発揮できる職場を創り、学生の成長を支援する大学

“OKIDAI VISION 2028”的実現に向けて

法人は、経営面から沖縄大学の活動を支えます

- ◆ 激変する社会環境に柔軟に対応し得る組織改革と経営基盤の強化



学校法人
沖縄大学

地域共創・未来共創の大学へ

地域共創・未来共創の大学へ

創立50周年を、沖縄大学は安定と発展の時代として迎えた。

文部科学省が展開した GP—全国大学の模範となる優れた取り組みを顕彰し援助する事業一を7つのプログラムで採択され、「教育の沖大」を誇りを持って自称することができた。地方大学としては、異例の成果であり、沖縄大学が現代日本の教育の弱点を解明しそれに対する処方を示すことができる大学であることを文部科学省が認めたのである。また現在人気学科となっているこども文化学科が発足したのも50周年の前年である。

50周年から今日にいたる10年間、地域共創・未来共創の大学として確かな歴史を刻んできた。

地域研究所が地域共創の活動拠点であることを組織的に明確にし、内部に地域共創センターを置き、所長の下副所長二人体制を確立した。研究においては、地域研究所とともに現代沖縄研究科が両輪となって地域研究を担っている。地域研究の実績の上に、文部科学省の補助事業である私立大学研究ブランディング事業「沖縄型福祉社会の共創」は、わずか40大学の一つに選ばれ、60周年に花を添えている。

教育の面においては、こども文化学科を中心に教員採用試験は年度ごとに合格者を増やし、2017年度は38名の大量合格を出し、学生を伸ばすことのできる大学として社会的評価を獲得している。学生支援課が主導する「チャレンジ沖大生」、地域研究所が主催する「琉球弧研究支援プロジェクト」など、沖縄大学憲章に宣言する「学生を大学の主人公にすえ、学生の可能性を最大限に引き出し、学生の主体的な参加を得て、更に活力ある沖縄大学」へと、全学レベルで組織的取り組みが行われてきたことを示している。

施設面においては、長田第二駐車場の取得、大学本館体育館の新築（50周年事業）、沖縄大学アネックス共創館の供用など格段の整備が行われた。

2018年、沖縄大学は還暦を迎える。法経学科の教育改革、健康栄養学部の開設等新しい発展を展望しつつ70周年に向けた船出をしようとしている。長期ビジョンは、沖縄大学憲章を戴きつつ近未来である10年後の輝かしい未来像を描くものである。学生、同窓生が誇りある大学を手を取り合って築きたいと決意している。

2018年6月10日
沖縄大学学長 仲地 博